

「子供たちの未来づくり」⑫

高校生は素晴らしい

— 牧水・短歌甲子園で見たもの



感動した！心が震えた。

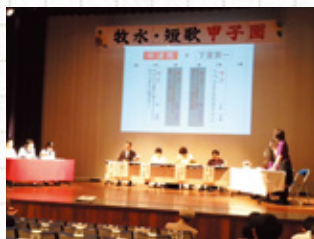
高校生たちが何と素晴らしいことか！
全国29校から50チームが応募、その中
から12チームが選ばれて予選・決勝と
2日間の戦いだった。

今年初めて観戦したが、引き込まれて
しまつて2日間とも釘づけだった。

普段の暮らしの何気ない情景を、実
にみずみずしく掘り上げる。そして相
手チームの歌を、攻撃するのではなく適
確に足りない所を突く。指摘された方
も負けじと歌論を述べる。その応酬が
実に清々しいのだ。高校生らしい、立
場とか見栄など眼中にない素直さのせ
いなのだろうか。

一人一人の歌に、俵万智、大口玲子
といった著名な一流の歌人が直接講評
してくれる。そのコメントがとても味
わい深い。「何を感じたのか」「何を伝
えたいのか」と繰り返し問われる。そ
れは、自分自身の心の内を見つめなお
していくことを促す。そして、どう表
現するのか。1語を変えただけで全く
違うものになった。聞いている私が「な
るほど！そうか」と思わず膝を打つて
しまった。歌をつくる面白さが観客に
も伝わってくる。高校生たちは自信を
得ただろう。そして、さらに歌の高み
へと導かれていくに違いないと思った。

これらの高校生たちに、豊かな感性
を育み、言葉の大切さを実感させてき
た先生方の日頃のたゆまぬ指導と、「牧



水・短歌甲子
園」という企
画を続けてこ
られた日向市
教委の見識と
ご尽力には頭
が下がる。さ
らに特筆すべ
きは、審査委
員長として一
貫して指導いただいている伊藤一彦氏
のお力によるところが大きいのと思う。

若山牧水というふるさと宮崎のかけ
がえのない宝をもとに宮崎の高校生が、
全国の高校生たちと切磋琢磨し合う。
私は、この姿を見ながら、ふるさとを
基軸に、広い世界と交わり、そして己
をつくっていく、という意味をかみし
めていた。

しかし！しかしである。地元日向か
ら参加チームがないことが何とも寂し
いことだった。来年に向けて、地元高
校に「短歌クラブ」ができないだろうか。
そこで腕を磨いたらどうだろう。教え
る先生が見つからなければ、市井の歌
詠みの方々のお力を借りればいいでは
ないか。牧水は、延岡と日向の宝なん
だから…。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲